

2021年4月26日

2020年度 第三者評価を受けて(語り支える会の立場から)

北星学園大学附属高等学校
教育を語り支える会
事務局長 鶴田恵子

はじめに

振り返るとコロナに怯えたまま、あれよあれよという間に1年が過ぎました。入学礼拝、PTA や後援会総会も書面開催となり、学校祭や体育大会も計画をしていたものの中止となりました。学校は制約があり窮屈な中でもできることを模索し、「教育」を継続されました。教職員の皆様のご苦労と努力に、頭を垂れるばかりです。何より、逆境にあっても果敢に前を向いて歩む生徒の皆様へ大きな拍手を送りたいと思います。

第三者評価を受けて

1. 本組織は主として北星学園大学附属高校の教育の充実に貢献するために、卒業生の保護者 OB、OG キリスト教会関係者、退職教員、近隣住民、施設職員などによって組織されています。この度、第三者評価を受けて、北星学園大学附属高校が大切にしてきた「共育」(生徒も保護者も教職員も、共に育む、育つ)という視点から述べさせていただきます。
2. 本組織はアナログの世代であるため、「ICT 教育の推進」は、時代の波に乗って進めてきたもののコロナ禍になって、これほど必要性に迫られるとは考えていませんでした。
本格的に2019年度に全生徒へタブレット PC (Microsoft 製) を全生徒へリース配布し、各教室に大型モニターを設置、通信環境インフラも含めて、ICT 環境整備を行ってきた取り組みも、文科省の GIGA スクール構想を意識していたことにより理解が追いつきました。長年、黒板とチョークと書面で教育を行い「共育」活動を行ってこられた教員の方々にとっては、その点で学校内での若干の抵抗もあったことは、当然ですが、学校長をはじめ「ICT 教育推進委員会」が、率先して研修や情報収集を行い、推し進めてきたことは、間違いではなかったと評価されていると考えます。
3. 新入生を対象とした「アンケート」から「本校に期待する点は何か」という調査を行い分析を続けてこられたことが、第三者が評価するように、コロナ禍の2020年度においては、あらゆる機会が中止や延期となってしまう、臨機応変に対応しなければなりません。未知の状況でスピード感を持って対応を求められる中、現在の学校運営体制では、決定するプロセスが多く時間がかかっています。公選制度の管理職であるため、決定権の権限を委譲して、その決断を尊重して前に進まなければならないこともあると思います。信頼に足りうる管理職であるため、教職員の意思と大きく相違する決断はないでしょう。そうした中で柔軟、かつスムーズに新たな取り組みに挑戦されることが期待されていると思います。
4. 英語の少人数展開授業の実施などを通して、英語力の向上に力を入れていることが第三者評価からも分かります。特進コース、進学コースの生徒が、目標としていた進学先を実現できるように工夫をされること、ますます期待されていますので、その点で、より一層の創意工夫を期待したいです。
5. 第三者の指摘通り、コロナ禍で、計画していた様々なキャリア教育、体験型学習の変更を余儀なくされましたが、基本理念である「共育」を大切に、他者や隣人との関りの中で、新しい教育を推進されることを望み引き続き、一歩、二歩、離れた立場から「教育を語り支える会」として、サポートしていきたいと思ひます。